

謹賀新年

昨年中は格別のご厚情を賜り、誠にありがとうございました。
本年も昨年同様、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。
皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

四万十川財団一同



鶴と四万十

日本人にとって、幸福や長寿を象徴する鳥である鶴。新年の祝いには鶴の挿絵。千羽の折鶴で祈りをささげ、民話「鶴の恩返し」でも親しまれている。そんな鶴が、四万十にもやって来ることを皆様はご存知だろうか。

鶴はシベリアや中国から越冬のために日本へやってくる。四万十で見られる鶴のほとんどがナベヅルやマナヅルで、世界一の越冬地・九州の出水平野に向かうため、休憩地点として四万十に立ち寄るようだ。しかし、中には四万十を越冬地として選ぶ鶴も見られる。四万十では昭和40年代から飛来・越冬する鶴を確認しており、越冬した翌年には同じ鶴が子どもを連れて飛来、再び四万十で冬を越す姿も見られている。



今年も四万十に鶴がやってきた。特筆すべきは鶴のために人工的に作った環境に鶴がやってきたということ。全国で初めてのことだ。

その仕掛け人、澤田佳長さんにお話をうかがった。

野生生物環境研究センター所長の澤田さん(77)は、40年以上も四万十で鶴を見守っている。

「鶴は雑穀性で、稲など植物の種子や根、昆虫や魚類などいろいろなものを食べます。また、外敵から身を守るため、浅く水が張っていることやすぐに飛び立てるような条件の整ったねぐらが必要です。鶴が越冬するということは、四万十には豊かな生態系と水田・湿地が残っているということであり、四万十川の原風景が維持されているということなのです。」

「今年越冬した鶴が翌年子どもを連れてやって来るようなサイクルを続けていくことで、四万十で越冬する鶴の数を増やしていきたい。そのためには、多くの人々の協力が必要です。」と澤田さん。鶴はとても気の弱い鳥であり、人が立ち入ったり、大きな音がしたりするだけでも逃げてしまい、次から四万十には来てくれなくなる。何気なく行う犬の散歩や釣りなどでも知らずのうちに鶴をおびやかしている可能性があり、周辺住民の理解と協力が欠かせないという。また、えさの確保やねぐらの整備のためには農家との連携も必要になってくる。四万十で鶴を迎えるためには、それぞれの人がそれぞれの立場から協力することが重要になりそうだ。



四万十つるの里づくりの会

約8年前に四万十市の中村商工会議所が中心となって、鶴の越冬地づくりと環境保全を目的に設立した「四万十つるの里づくりの会」。今では約30の民間団体と地域の区長等が協力し、取り組みを進めている。鶴の訪れる場所に注意喚起の看板を立てたり、えさ場やねぐらの整備に取り組んだり、啓発活動として自然体験学習の実施、数年前からは“つるの里祭り”も開催するようになった。先日1月20日まで四万十市の中央公民館で写真展も行うなど、多くの人に鶴のPRを行っている。



高知県四万十市中村小姓町46 中村商工会議所内
<http://www.shimanto-tsuru.com>

ところで、「最後の清流四万十川」というこの言葉、昭和58年にNHKの番組で使われ定着したものであるが、なんと発案者は澤田さんなのである。長年四万十川を見守り続けた澤田さんが、テレビ局の方に「四万十川を最後の清流にたくない」という想いを語ったところ、この言葉ができたのだとか。テレビ番組で四万十川を取り上げてもらうのにも何年も何年も交渉を続け、やっと実現したのだと穏やかに語ってくれた。澤田さんは鶴だけでなく四万十川をも見守り続けてくれている。



四万十街道ひなまつり開催します！

四万十川流域の春の風物詩、四万十街道ひなまつりが今年も開催されます。早春の四万十に遊びに来ませんか。

開催日時

2014年2月15日(土)～4月3日(木)

※地域により開催期間が異なりますのでお問い合わせください。

開催場所

高岡郡津野町・高岡郡桺原町・高岡郡中土佐町・
高岡郡四万十町・四万十市・愛媛県鬼北町

■主催：四万十遺産ネットワークス(NPO 四万十 ART・ART 桺原・津野町ひなまつり実行委員会・NPO ナイスリバープロジェクト・明星ヶ丘いきいき会)

問い合わせ先窓口：高野七福神の会

電話：0889-62-3238 (株山興 内)

